

- 自主防災組織を含む地域防災力の強化を図るため、葛城校区での防災研修会及び訓練を行った。
- 葛城校区は貝塚市内で最も山手の地域で、土砂災害の危険性もあるため、①土砂災害を想定した講座(大阪府岸和田土木事務所職員)、②避難所運営ゲーム(HUGゲーム)、③避難所開設訓練という内容で3回の研修会を行った。避難訓練では、避難所受付・パーテーション・仮設トイレ及びトイレテントの組み立てや設置、ガスボンベ式発電機の運転、し尿凝固剤実演など、実際の避難所運営を想定したものをを行った。また、備蓄非常食(賞味期限が近いもの)の配布、二次元バーコードを活用した受付(ロゴフォーム)の試験的な実施も行った。
- 参加者は①15人程度、②19人、③50人以上と回を重ねる度に参加者が増加し、避難所開設訓練には多くの地域住民が参加した。参加者はパーテーション等の組み立てを行い、また、避難所運営は避難者の協力も必要との説明を受け、自分事として受け止め積極的に訓練に参加していただけた。25名と半数近い住民がロゴフォームによる受付を行い、色々な意見をいただいた。

○第1回目は、これまでに地域住民とまち歩きを行って作成した地域防災マップやコミュニティタイムライン、土砂災害について研修を行った。



○第2回目のHUGゲーム。アンケート結果では、避難所運営の難しさや避難所運営委員会を予め地域で募るなどの意見もあった。



○第3回目の避難所開設訓練では消防・自衛隊も参加した。子ども連れの参加者もあり、子ども連れの避難者の対応も想定することができた。

○複数地区での合同だったため「いつもの町会メンバー」ではない住民同士の交流もでき、実際に避難所開設した場合にもスムーズに協力体制を築くことができるようになった。

○ロゴフォームによる受付については、参加者から賛否両論意見をいただいた。中には操作が難しく紙での受付はなくさないでほしいとの声もあった。参加者の意見をもとに今後の対応やロゴフォームの操作方法の周知など検討すべき課題がわかった。

ロゴフォーム受付の様子

